

令和6年度尾張旭市都市再生整備計画事業評価会議 会議要旨

1 開催日時

令和7年1月24日（金）

開会 午後2時00分

閉会 午後3時20分

2 開催場所

尾張旭市役所 南庁舎3階 303会議室

3 出席委員（4名）

水津 功、菅井 径世、河口 美智子、相羽 かよ子

4 欠席委員

なし

5 傍聴者数

1名

6 出席した事務局職員

都市整備課：永尾 幸市、林 修吾、竹本 彩乃

日本工営都市空間株式会社：西尾 満、浅井 拓登

7 議題等

(1) 尾張旭市活力拠点地区について

ア 数値指標の達成状況と効果発現要因の整理

イ 今後のまちづくり方策

(2) 尾張旭市やすらぎ拠点地区について

ア 数値指標の達成状況と効果発現要因の整理

イ 今後のまちづくり方策

8 会議内容

(1) 目的

事後評価結果の合理性・客観性を担保するため、第三者によって構成される評価会議にて内容を審議し、市の評価を総合的かつ専門的な知見から補強する。

また、今後のまちづくり方策について意見を聴取する。

(2) 概要

市が会議構成員を紹介した後、水津氏を座長に選出した。座長進行のもと、事務局が議題に沿って、尾張旭市活力拠点地区及び尾張旭市やすらぎ拠点地区それぞれの事業内容、事後評価内容、今後のまちづくり方策等について説明を行った。

説明後、それぞれについて質疑応答や事後評価シートに対する意見の聴取を行った。

(3) 尾張旭市活力拠点地区の質疑・意見等（午後 2 時 0 5 分～ 4 0 分）

ア 数値指標の達成状況と効果発現要因の整理

菅井委員	指標 1 「地区内人口」について、全国の人口が減っているなかで本地区の減少率を抑えられているので、事業の効果があったといえるのではないかな。 また、平成 3 0 年から令和 2 年の本地区人口は減少していたが、令和 3 年以降の人口は横ばいで推移している。それに対し、本地区以外では人口が減少している。本地区は中心市街地となる場所に位置しており、この事業により市として目指していたコンパクト化が進んだと考えられるため、目標達成度を○としてもよいのではないかな。
水津委員	全国の人口減少よりは緩やかということを、事後評価シートに記載してはどうか。目標値を高く設定したため、結果として達成できていなかったように見えるが、全国の傾向と比べれば人口減少を抑制しているといえるのではないかな。
事務局	事後評価の仕組み上、目標未達であれば○ではないと判断し、△としている。全国の傾向との比較や、コンパクト化の進展等については、事後評価への記載を検討する。 目標値については、土地区画整理実施地区を含むため増加を目指すこととした。次期計画等において、全国データなど多面的な情報を取りいれながら目標設定することを課題としたい。
菅井委員	アダプトプログラムの進展について、公園整備が要因なのか。
事務局	本市では公園の清掃活動を地域住民で行っている。今回の公園再整備に呼応して、まち全体の清掃活動の機運が高まったと考えている。
菅井委員	公園の整備費はいくらか。
事務局	東栄公園で約 9, 400 万円、旭台第 1 号公園で約 5, 700 万円である。
菅井委員	尾張旭市の財政規模を踏まえると、その程度の投資で活動が増えたというのは効果があったといえるだろう。 公園の整備効果としては防犯の視点があってもよいのではないかな。
事務局	「子育てしやすい」という視点で防犯の効果も含まれている。
水津委員	そのような側面の指標を加えられないかな。
事務局	その他の指標として加えるのは可能である。まちづくりアンケートに防犯に関する設問があるかもしれない。
菅井委員	異常な犯罪が 1 件でもあるとアンケートの結果は大きく変動する。犯罪は件数ではなく内容の程度で変わってくるので、防犯に対して効果があったとは一概に言えない。 指標に加えるのではなく、公園を利用する人が増えたことや、アダプトプログラムで人が集まることによって、防犯性も高まったということを所見で述べるとよい。

河口委員	東栄公園については、実感として使いやすくなった、子連れで集まりやすくなったと思う。 満足度の上昇は、そういった面が寄与していると考えられる。
------	---

イ 今後のまちづくり方策

水津委員	人口について言えば、人口増加のためには三郷駅前再開発事業を推進し、三郷駅前の魅力を向上させないといけない。
事務局	当該事業を推進していく予定である。
相羽委員	区画整理で整備された道路により、南原山交差点において、地区外の北進道路の渋滞が発生することとなった。また、当該道路は通学路にもなっている。 今後のまちづくりでは、こういった箇所を改善してほしい。
事務局	渋滞解消や道路ネットワークの向上には、用地確保など課題も多い。警察と連携し、信号間隔の改善等のソフト事業とも合わせて検討していきたい。
水津委員	区画整理で整備された都市計画道路は、三郷などの渋滞緩和に効果を発揮したか。
事務局	多少の影響はあったと思うが、瀬戸街道にしわ寄せがいつて混雑している。道路ネットワークの課題は整備後も注視していく必要があると考えている。

(4) 尾張旭市やすらぎ拠点地区の質疑・意見等（午後２時４０分～午後３時１５分）

ア 数値指標の達成状況と効果発現要因の整理

菅井委員	指標２「年間の人身事故件数」について、人身事故の発生件数が減ると見込んだ理由は何か。
事務局	目標設定の理由としては、事業開始前の平成２７年から令和元年までの５年間で減少傾向であったため、事業の効果で減少傾向が続くと見込んだ。 結果として事故件数は減らなかったが、令和５年度の霞ヶ丘線などの道路整備により交通量が分散されるため、今後事故が減ることを期待している。
菅井委員	交通事故は評価が難しい。 交通量には、本市を起点とした交通だけでなく、本市を通過する交通も含まれている。通過のみの交通は事故も少なくなりやすい。 事故件数は、交通量によって数値が誤差の範囲となってしまう場合もあり、件数だけで良い悪いとはっきり言うことは難しい。 今後は、交通量の減少や自動車性能の向上等により交通事故も減っていくことが想定される。
水津委員	数値に出してしまうと評価せざるを得ない面もあるが、誤差の範囲との考え方もある。 人身事故の定義はどうなっているか。
事務局	車と歩行者・自転車などの事故など、人の負傷や死亡が発生した事故である。

菅井委員	指標３「健康な生活を送っている市民割合」について、満足度が上昇したことは良いが、全国平均と比べてどうかなど、比較の基準があるとよい。
水津委員	目標値と評価値を比べるだけでは、事業に対する適切な評価であるかの判断がしにくい。アンケートのサンプル数も気になる。
菅井委員	×や○と単純につけるのは難しい。△としてもいいかもしれない。全国平均のデータ等も入れて評価を判断するのが良いのではないか。
事務局	事後評価の仕組み上、目標を達成したかどうかで○、△、×を判断している。 次期計画の事後評価においては、データの比較等の実施を検討する。
水津委員	効果発現要因の△は、目標未達でも一定の効果があつたとの意味と理解した。 ある程度効果をあげたといえる根拠が説明されているとよりよい評価となる。
事務局	事後評価シートへの記載を検討する。

イ 今後のまちづくり方策

河口委員	印場駅周辺のバリアフリー化は駅のどちら側を考えているのか。
事務局	これまで南側のバリアフリー化を進めてきたので、今後は北側のバリアフリー化を考えている。
水津委員	駅構内のエレベーターは名鉄、自由通路のエレベーターは市がやっているのか。
事務局	そうである。
河口委員	印場駅は北側の入り口が非常にわかりにくい。エレベーターを設けるのは場所の確保の面でも困難だと思う。
事務局	現在、北側にエレベーターを設置することの検討を進めている。
水津委員	北側のバリアフリー整備が遅れている理由は何か。
事務局	調整池や道路環境も含め、場所の確保や配置検討等が課題となっている。
水津委員	歩行環境整備について、交通事故の減らなかった危険な箇所があるか。その地点は歩道の整備はされているか。
事務局	事故のあつた場所を時系列では分析していない。交差点での事故が多いため、防護柵の設置等で対応を検討する。 舗装のカラー化など車の速度を落とさせるような対策なども考えられる。
水津委員	総合的な対策を行うことで事故減少の効果が上がるとよい。
菅井委員	市外では、左折する車が歩行者と交錯するため危険な交差点であつたが、歩行者側の信号を車の左折時は赤になるよう改善し安全になったという例がある。
事務局	特に危険な箇所については、警察と連携して信号の歩車分離を進めている。

菅井委員	危険な交差点について市民の感情・感覚を聞いて改善をしていくことも効果的ではないか。
事務局	一定の区域を定めて地域住民や警察とも協力して改善策の検討も進めている。地域住民と一体となった安全対策、環境整備を進めていきたい。
水津委員	整備が進み交通量が増えることで新たに危険になる箇所もあるため、そういった箇所の対策も必要である。地域住民や警察と対話ができる環境を構築できるとよい。